

(別紙1)

事業報告書

事業名	<p>男木島高齢者の2つの困り感に寄り添う人材の確保を —シェアハウス入居者との交流を通して—</p>
趣旨・目的	<p>古民家を移住希望の若者（以下、入居者）と一緒にシェアハウスとして再生し、シェアハウスを拠点に入居者が、高齢者と交流、高齢者の困り感を解決し高齢者の生きがいづくりに寄与することを目的とする。</p>
事業実施の地域及び対象者	<p>地域：男木島 対象者：高齢の島民92名</p>
事業内容	<p>男木島は、最盛期には1,500人ほどが暮らしていましたが、現在は十分の一の150人にまで減少し、しかも内3分の2が高齢者の限界集落となっています。</p> <p>子育て世代の移住者は、お年寄りとの交流時間を持つことが困難で、移住者の中には、子どもが高校に入学すると同時に離島する予定の方もいるように聞いており、高齢化はますます進むものと思われまます。</p> <p>高齢化により年間10人ほどの自然減で、このまま更に人口が減れば、フェリーは減便されて、郵便局も農協購買部もなくなり食料品の調達もままならない、高齢者にとって一層住みづらい離島になり、道幅1メートルに満たない集落の道は、草で覆われて高齢者には、歩くことさえできなくなります。</p> <p>人口の現状維持のためにも移住人口や関係人口が増加することが、島民全体の願いです。</p> <p>香川県政策部男女参画・県民活動課による昨年度(令和2年度)の事業をきっかけに、認定NPO大阪NPOセンターとご縁をつないでいただき、男木島の高齢化という社会課題について、今年度も継続して相談にのっていただいております。</p> <p>そのおかげで、今回のシェアハウス作り及び若年層の人口増をめざす事業に取り組むことになりました。</p>

	<p>空き家をシェアハウスに改修しつつ、同時に大阪 NPO センターの指導を受けながら「島の文化学習冊子」「シェアハウスづくりマニュアル」を作成します。</p> <p>入居者は、そのマニュアルをもとに、シェアハウスで月 2 回島の文化や習慣を学び、島民との交流をします。お年寄りの頼みごとに気軽に寄り添える関係づくりを行います。同時に入居者は将来的に自分のシェアハウスづくりをし、各自入居者を募っていくことで、移住・関係人口を増やすことを目指します。</p> <p>私は還暦を迎えますが、高齢者から「水路を直してほしい」「雨漏りを見てほしい」など毎週声をかけられ、素人ではありますが、喜ばれています。その際、高齢者に「テレビの相手ばかりじゃさみしいよ、話しに来てよ」と言っています。</p> <p>この事業では、シェアハウスを入り口として、高齢者の「自分の家の簡単な修繕が困難」「一人暮らしのさみしさ」という困り感を解決するため、今後も継続してコンサルでの客観的な評価、改善を繰り返しながら、お年寄りが生き生き暮らすことができる地域づくりの一助となるように努力していきます。</p>
事業実施期日	<ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りとお年寄り希望者との交流（茶話会、食事会含む）について 2021年 7月14日「島での生活の仕方」（ゴミの分別の仕方、リユースの実践含む）をお年寄りから習った。 7月20日 昔の知恵を習った。（屋外での虫よけの方法など） 7月23日、24日「石積みの技術」を習った。 8月「畑の準備、肥料の入れ方」、「荷造りの仕方」を習った。浜辺の清掃交流 2022年 12月29日床下の点検方法、餅つき、健康づくりの野草茶 1月6、8、10、15、26日野草の食べ方、お茶 2月17日刃物の研ぎ方、3月5日干物の作り方 ・実施した作業について 敷地近隣の藪の整備・ゴミ出し 2021年 7月13日から28日のうちの12日間、 12月29、30日、2022年1月6、8、10、15、26日（有償ボランティア5日間） 敷地の石垣修復工事と水路掃除 8月15日から19日 <作業委託による工事> 家の外壁工事 2022年1月22日から28日の7日間 天井工事2月4日から9日の6日間 床工事2月17日、19日、24日、25日、27日の5日間 壁塗り工事3月5日から10日の6日間

<p>事業実施の効果</p>	<p>・年寄りとの交流について ボランティアだけでなくお年寄りの支えになってあげてほしいということで募集したところ 4 名の応募があり、特にお年寄りとの交流を重視していることを伝えて話を進め、活動を進める中で 2 名が島への移住を決意した。 1 か月の活動で、1 名が島内の家を買って完全移住を果たし独自の活動を始めた。</p> <p>もう 1 名は、2 か月の活動の中で、ゴミ捨てなどの手伝いやアルバイトに呼ばれたり、島の子供たちの遊びに付き合ったり、灯台の砂浜のゴミ拾いをしたり、耕作放棄地の草取りをしたりと精力的に島民との交流を続けている。現在、自分の家を確保し修繕を始めた（借家）。</p> <p>1 1 月シェアハウスの修繕ボランティア（入居希望者）の再度募集を始め、2 人が 1 2 月からボランティアで来島し、4 月からシェアハウスでの入居を決めている。2 月から来島しボランティアに来た女性 2 名も入居を検討している。</p> <p>まとめ お年寄りに寄り添う 2 名の移住者を作り、関係人口を 1 2 名招いた。コロナ禍で当初より活発ではないが、この事業を通してボランティアを続けてもらう関係が続いている。2 0 2 2 年度も、シェアハウスでの生活を基盤に島民との交流やゴミ捨てなど荷物の運搬、草抜きなどお年寄りの困り感に寄り添いながら、家の修繕を通して島の発展に寄与していただけるものと考えている。</p>
<p>備考</p>	

(別紙2)

収 支 精 算 書

【収入】

(単位：円)

項 目	金 額	説 明
補助金交付金額	739,087 円	
自己資金	95,353 円	①+②+③+④
①参加料収入		
②会費等		
③寄附金等		
④その他	95,353 円	事業費補填 16377 円、飲食材料費 23976 円、マニュアル冊子編集費 55000 円
助成金等収入		①+②+③+④
①補助金収入		
②委託金収入		
③その他		
その他資金収入		
合 計	834,440 円	

【支出】

項 目	金 額	説 明 (使途、精算根拠等)
旅費交通費	14,190 円	ボランティアフェリー代 1020 円 ×13 回 漆喰 310 円×3 個
業務委託費 (有償ボランティア謝礼含む)	396,500 円	日当 16000 円×24 日 有償ボランティア 12500 円
材料費	322,972 円	木材・釘・畳上敷きなど
材料費	21,802 円	土壁
自己資金 (雑費)	78,976 円	飲食材料費 23976 円、マニュアル冊子編集費 55000 円
合 計	834,440 円	

(注) 交付決定を受けた事業の収支について記入してください。